

大阪教育大学附属天王寺中学校評価資料
—生徒、保護者、教師を対象とする調査結果—

平成 26 年 2 月

1 調査の概要

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

| | | | | | |
|--|---|--|--|--|--|
| 【生徒・保護者用】 | | | | | |
| Q1 | 中学・高校の別 | | | | |
| Q2 | 性別(生徒の性別) | | | | |
| Q3 | 学年 | | | | |
| Q4 | 組 | | | | |
| 生徒用: 「一学期からの自分の学校生活を振り返ってください。」 | | | | | |
| 保護者用: 「保護者からみて、今年度一学期のお子さんの学校生活がどのような状態だと思われましたか。」 | | | | | |
| (1; そう思わない 2; あまりそう思わない 3; 多少そう思う 4; そう思う) | | | | | |
| Q5 | 将来の目標を持ち、それに向けて努力している。 | | | | |
| Q6 | 物事をよく観察して調べたり考えたりといった探究の活動に積極的に取り組んでいる。 | | | | |
| Q7 | 他の人の話をよく聞いたり、自分の考えを他の人に伝えることができる。 | | | | |
| Q8 | 興味・関心を持って授業を受けている。 | | | | |
| Q9 | 予習・復習や課題の提出など、普段から一生懸命努力している。 | | | | |
| Q10 | いま、学校生活で悩んでいることは特にない。 | | | | |
| Q11 | 他の生徒と協力して活動している。 | | | | |
| Q12 | 学校で周りの人を大切にしている。 | | | | |
| Q13 | 学校の決まり事を守っている。 | | | | |
| Q14 | 充実した学校生活を送っている。 | | | | |
| 【教員用】 | | | | | |
| Q1 | 中学・高校の別 | | | | |
| Q2 | 性別 | | | | |
| Q3 | 学年 | | | | |
| Q4 | 組 | | | | |
| 「一学期からの自分の教育活動を振り返ってください。」 | | | | | |
| (1; そう思わない 2; あまりそう思わない 3; 多少そう思う 4; そう思う) | | | | | |
| Q5 | 生徒に将来の目標を持たせ、それに向けて努力させている。 | | | | |
| Q6 | 探究活動を意識して、生徒に積極的に取り組ませている。 | | | | |
| Q7 | 読解力や表現力育成を意識して、生徒に指導を行っている。 | | | | |
| Q8 | 生徒に興味・関心を持たせるため、授業に工夫をこらしている。 | | | | |
| Q9 | 予習・復習や課題の提出など、普段から生徒に努力させている。 | | | | |
| Q10 | ゆとりを持って、生徒の指導や相談に対応している。 | | | | |
| Q11 | 他の生徒と協力して活動するよう指導している。 | | | | |
| Q12 | 生徒に人権を尊重した仲間づくりを意識させている。 | | | | |
| Q13 | 学校での決まり事を意識した生活を指導している。 | | | | |
| Q14 | 生徒が充実した生活を送れるように、努力している。 | | | | |

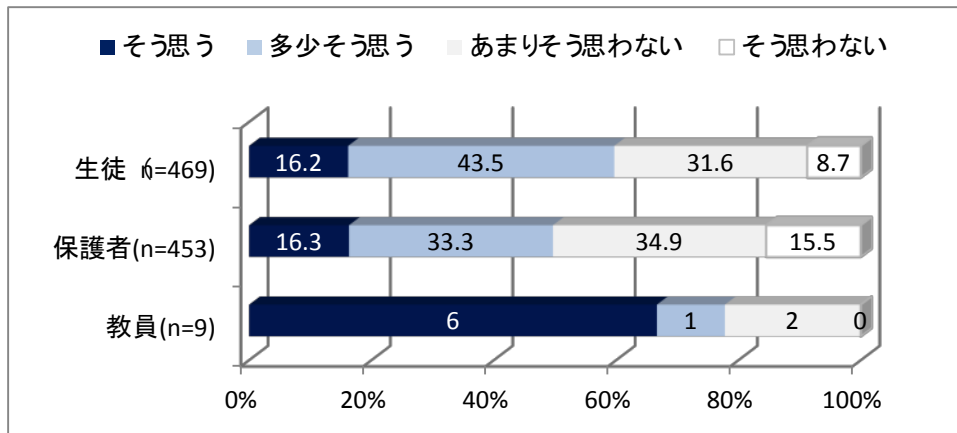
(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。なお、無記入・不明回答は欠損値として処理したため、属性ごとの各対象の合計は異なる。

| 対象 | 性別 | | 学年 | | |
|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 男性 | 女性 | 1年 | 2年 | 3年 |
| 生徒 (n=469) | 231 49.3 | 238 50.7 | 154 32.8 | 156 33.3 | 159 33.9 |
| 保護者 (n=453) | 222 49.1 | 230 50.9 | 148 32.7 | 158 34.9 | 147 32.5 |
| 教員 (n=9) | 4 44.4 | 5 55.6 | 0 0.0 | 8 88.9 | 1 11.1 |
| 全体 (n=931) | 457 49.1 | 473 50.9 | 302 32.4 | 322 34.6 | 307 33.0 |

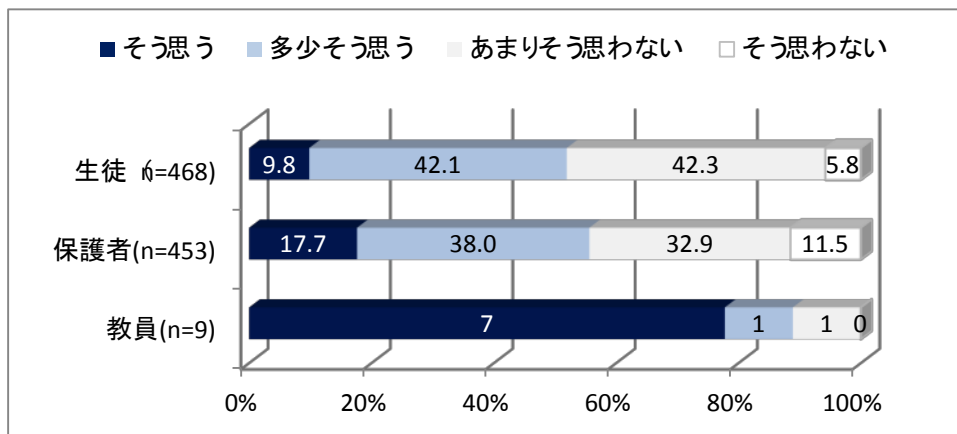
(3) 学校生活にかかわる自己評価の(クロス集計)結果

① 将来の目標



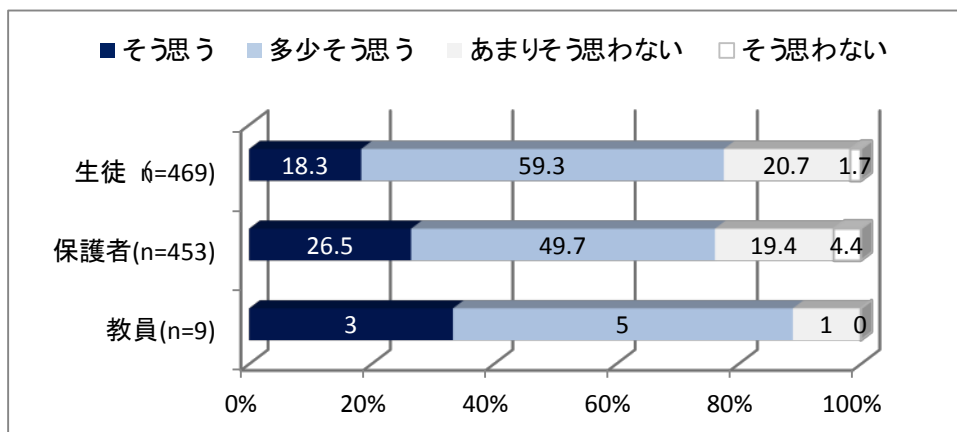
生徒、保護者、教員とも、肯定的な回答がほぼ半数となっているものの、否定的な回答が生徒でほぼ4割、保護者でほぼ5割となっている。

② 探究活動



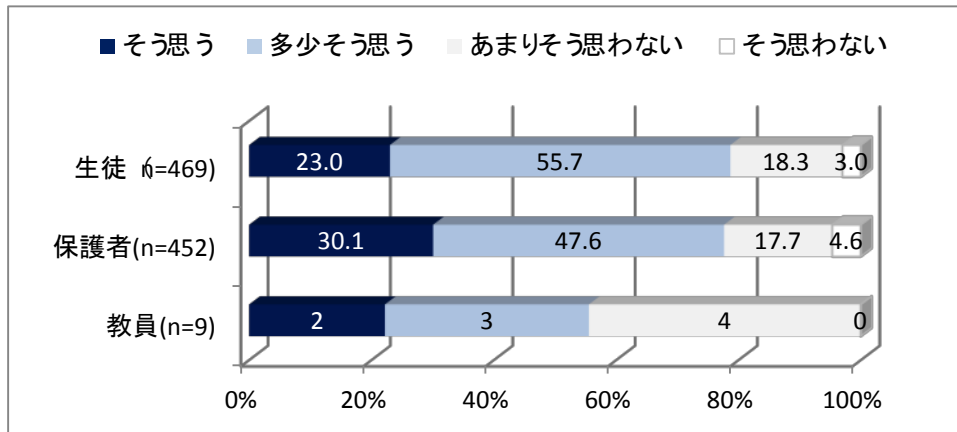
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が5割を超えているものの、生徒の「①」という回答は9.8%と10人に1人以下となっている。

③ 聞く伝える



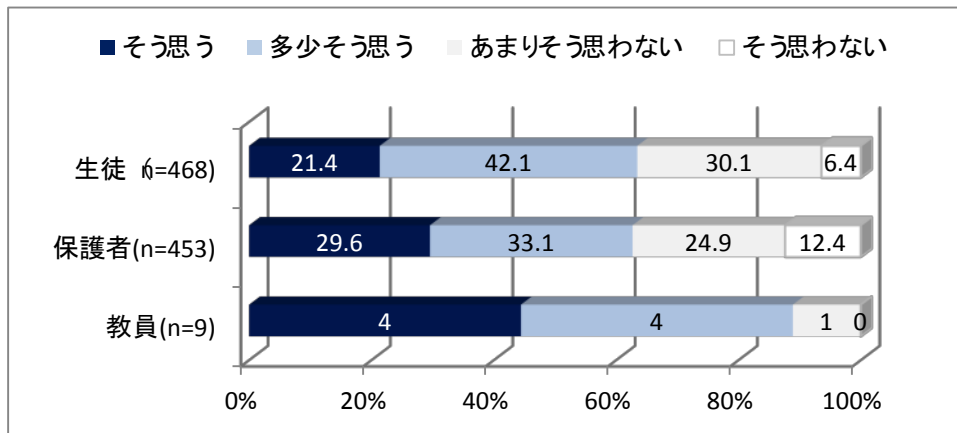
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が、7割を超えているものの、生徒の「①」という回答は18.3%と5人に1人以下にとどまっている。

④ 興味・関心と授業



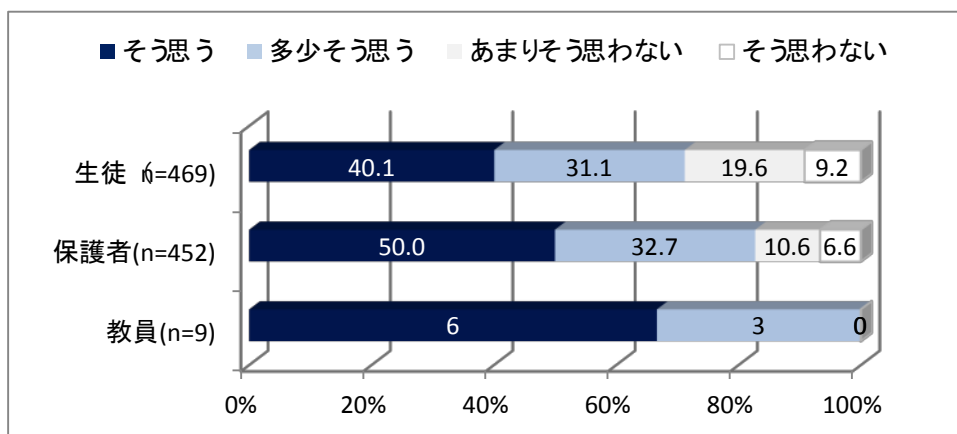
肯定的な回答の比率が、生徒、保護者ともほぼ8割となっている。教員の肯定的な回答は半数程度であり、今後の検討が必要となる結果といえよう。

⑤ 予習・復習努力



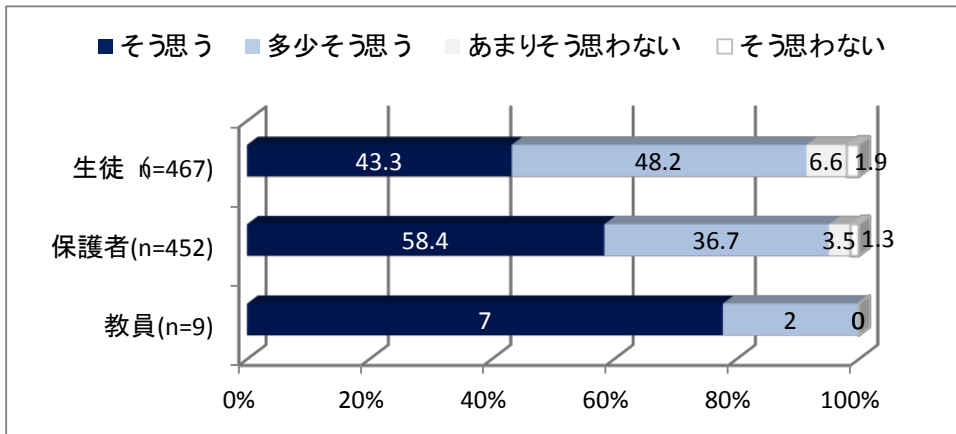
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が6割を超えているものの、生徒の「そう思う」という回答が21.4%と相対的に低調であり、さらなる改善が求められる結果といえよう。

⑥ 学校生活と悩み



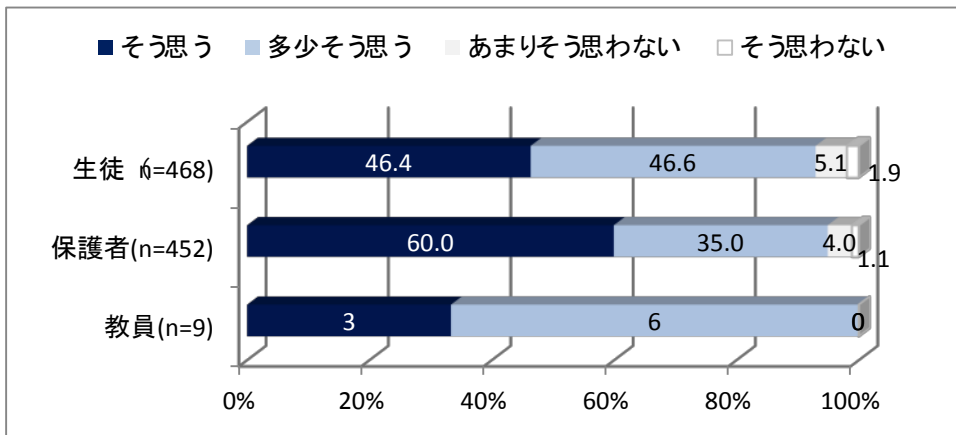
28.8%とほぼ3割の生徒が不安や悩みを抱えている状況にあることがうかがえる。組織的な対応の在り方が問われる結果といえよう。

⑦ 他人との協力



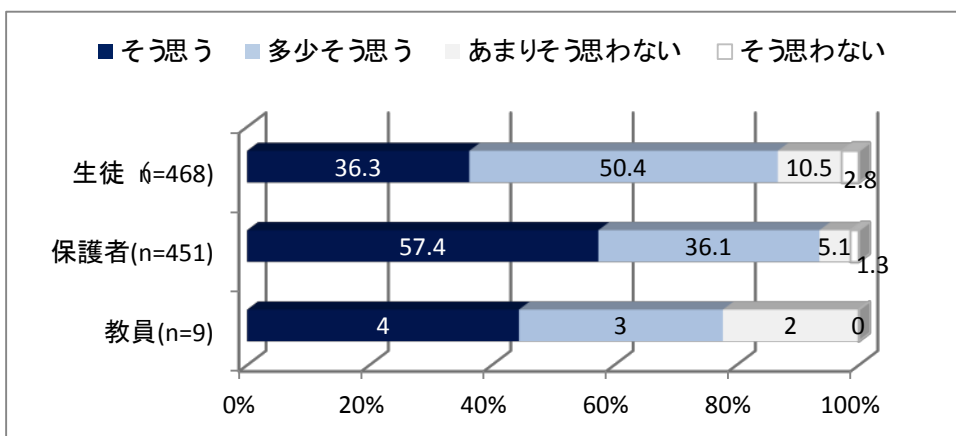
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答が9割を超えている。

⑧ 他人の尊重



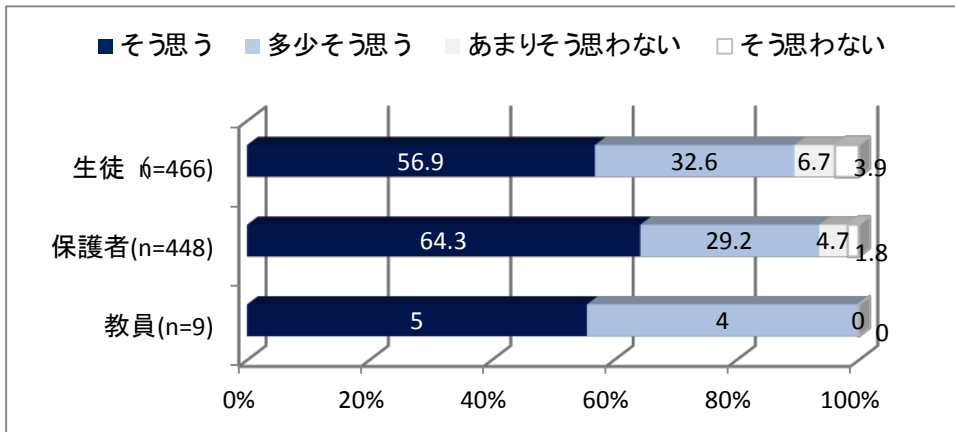
生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が9割を超えている。

⑨ 決まりの順守



生徒、保護者とも肯定的な回答の比率がほぼ9割となっている。一方で、教員の肯定的な回答は8割程度となっている。

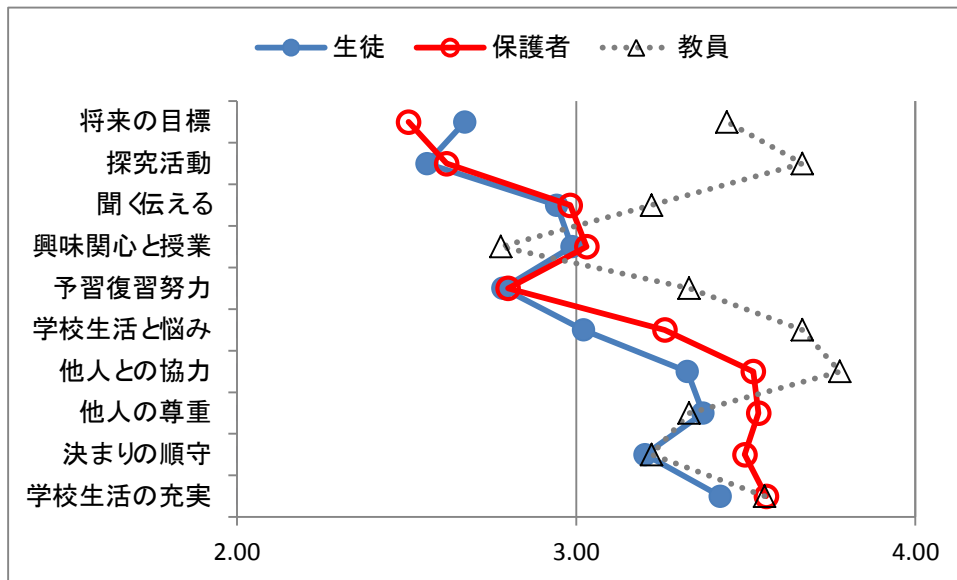
⑩ 学校生活の充実



肯定的な回答の比率が、保護者で 93.5%と 9 割を超え、教員も同様の結果となっている。一方で、生徒の肯定的な回答者の割合が 89.5%と、ほぼ 9 割に達するものの、10 人に 1 人程度の生徒が学校生活に充実感を感じていないことを踏まえ、学校全体としての組織的取り組みを通して、この肯定的回答の極大化に努める必要がある。

(4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒、保護者、教員間比較



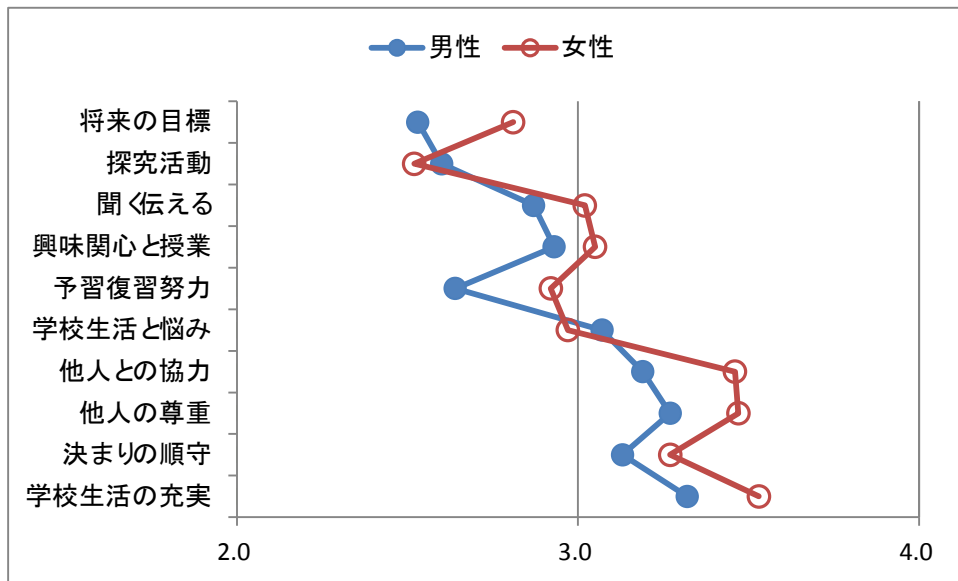
| 項目 | 生徒 | 保護者 | 教員 | F値 | 有意水準 | 多重比較 | | |
|---------|------|------|------|--------|------|--------|--------|--------|
| | | | | | | 教員>生徒 | 教員>保護者 | 生徒>保護者 |
| 将来の目標 | 2.67 | 2.51 | 3.44 | 8.014 | ** | 教員>生徒 | 教員>保護者 | 生徒>保護者 |
| 探究活動 | 2.56 | 2.62 | 3.67 | 8.117 | ** | 教員>生徒 | 教員>保護者 | |
| 聞く伝える | 2.94 | 2.98 | 3.22 | 0.892 | | | | |
| 興味関心と授業 | 2.99 | 3.03 | 2.78 | 0.765 | | | | |
| 予習復習努力 | 2.78 | 2.80 | 3.33 | 1.554 | | | | |
| 学校生活と悩み | 3.02 | 3.26 | 3.67 | 8.913 | ** | 保護者>生徒 | | |
| 他人との協力 | 3.33 | 3.52 | 3.78 | 11.308 | ** | 保護者>生徒 | | |
| 他人の尊重 | 3.37 | 3.54 | 3.33 | 7.431 | ** | 保護者>生徒 | | |
| 決まりの順守 | 3.20 | 3.50 | 3.22 | 20.411 | ** | 保護者>生徒 | | |
| 学校生活の充実 | 3.42 | 3.56 | 3.56 | 3.993 | * | 保護者>生徒 | | |

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、生徒、保護者、教員の各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施した。多重比較にはボンフェローニの法を用いた。

その結果、「聞く伝える」「興味関心と授業」「予習復習努力」以外のすべての項目において、生徒、保護者、教員の間で1%水準で有意差を認めることができた。

結果は、先の、(3) 学校生活にかかわる自己評価の(クロス集計)結果に示したものと同様であるが、全ての項目の状況をより総括的、客観的に示すことに主眼を置いたものであることから、詳細な結果の記述や考察は省略するが、図より、生徒の、「探究活動」「将来の目標」「予習復習努力」に関して、相対的にポイントが低くなることがうかがわれる。

② 生徒の性別による比較

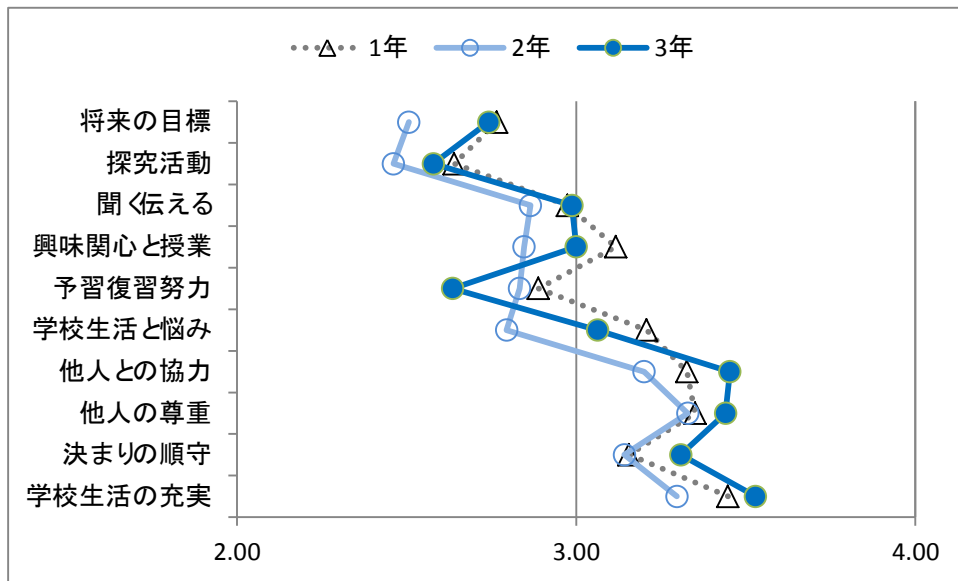


| 項目 | 男性 | 女性 | t値 | 有意水準 |
|---------|------|------|-------|------|
| 将来の目標 | 2.53 | 2.81 | -3.54 | ** |
| 探究活動 | 2.60 | 2.52 | 1.07 | |
| 聞く伝える | 2.87 | 3.02 | -2.43 | ** |
| 興味関心と授業 | 2.93 | 3.05 | -1.77 | * |
| 予習復習努力 | 2.64 | 2.92 | -3.55 | ** |
| 学校生活と悩み | 3.07 | 2.97 | 1.04 | |
| 他人との協力 | 3.19 | 3.46 | -4.45 | ** |
| 他人の尊重 | 3.27 | 3.47 | -3.33 | ** |
| 決まりの順守 | 3.13 | 3.27 | -1.98 | * |
| 学校生活の充実 | 3.32 | 3.53 | -2.97 | ** |

生徒の性別に、「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして平均を算出し、平均の差の推計のためにt検定を施した。

その結果、「探究活動」と「学校生活の悩み」を除く8項目で有意差を認めることができた。有意差の認められたすべての項目において、男子より女子のポイントが高いという結果となっている。性差を踏まえたきめ細かな指導の必要性を示唆する結果といえよう。

③ 生徒の学年による比較



| 項目 | 1年 | 2年 | 3年 | F値 | 有意水準 | 多重比較 | | |
|---------|------|------|------|-------|------|-------|-------|--|
| 将来の目標 | 2.77 | 2.51 | 2.74 | 0.011 | * | 1年>2年 | 3年>2年 | |
| 探究活動 | 2.64 | 2.46 | 2.58 | 2.000 | | | | |
| 聞く伝える | 2.97 | 2.87 | 2.99 | 0.215 | | | | |
| 興味関心と授業 | 3.12 | 2.85 | 3.00 | 3.053 | ** | 1年>2年 | | |
| 予習復習努力 | 2.89 | 2.83 | 2.64 | 0.021 | * | 1年>3年 | | |
| 学校生活と悩み | 3.21 | 2.79 | 3.06 | 0.001 | ** | 1年>3年 | 3年>2年 | |
| 他人との協力 | 3.33 | 3.20 | 3.45 | 0.005 | ** | 3年>2年 | | |
| 他人の尊重 | 3.35 | 3.33 | 3.44 | 0.299 | | | | |
| 決まりの順守 | 3.16 | 3.14 | 3.31 | 0.083 | | | | |
| 学校生活の充実 | 3.45 | 3.30 | 3.53 | 0.029 | * | 3年>2年 | | |

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較にはボーンフェローニの法を用いた。

その結果、「将来の目標」「興味関心と授業」「予習復習努力」「学校生活と悩み」「他人との協力」「学校生活の充実」の6項目で学年間に有意差が認められた。多重比較の結果をみると、どの項目においても、学年の連続性をうかがうことは難しい結果となっている。

④ 生徒の学年毎の組別比較

| 1年 | | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
| 項目 | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 有意水準 | 多重比較 | | |
| 将来の目標 | 2.66 | 2.92 | 2.70 | 2.79 | | | | |
| 探究活動 | 2.55 | 2.61 | 2.82 | 2.63 | | | | |
| 聞く伝える | 2.89 | 3.00 | 3.03 | 3.00 | | | | |
| 興味関心と授業 | 3.14 | 3.03 | 3.15 | 3.16 | | | | |
| 予習復習努力 | 2.93 | 2.76 | 3.12 | 2.76 | | | | |
| 学校生活と悩み | 3.14 | 3.08 | 3.27 | 3.37 | | | | |
| 他人との協力 | 3.21 | 3.28 | 3.45 | 3.39 | | | | |
| 他人の尊重 | 3.18 | 3.10 | 3.58 | 3.61 | ** | 4組>1組 | 4組>2組 | 3組>2組 |
| 決まりの順守 | 3.18 | 3.10 | 3.15 | 3.18 | | | | |
| 学校生活の充実 | 3.30 | 3.29 | 3.52 | 3.73 | * | | | |

| 2年 | | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|------|------|--|--|
| 項目 | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 有意水準 | 多重比較 | | |
| 将来の目標 | 2.66 | 2.49 | 2.51 | 2.38 | | | | |
| 探究活動 | 2.39 | 2.44 | 2.44 | 2.58 | | | | |
| 聞く伝える | 2.74 | 3.00 | 2.87 | 2.85 | | | | |
| 興味関心と授業 | 2.95 | 2.82 | 2.79 | 2.83 | | | | |
| 予習復習努力 | 2.84 | 2.92 | 2.82 | 2.75 | | | | |
| 学校生活と悩み | 2.79 | 2.95 | 2.77 | 2.68 | | | | |
| 他人との協力 | 3.21 | 3.23 | 3.21 | 3.15 | | | | |
| 他人の尊重 | 3.46 | 3.33 | 3.36 | 3.18 | | | | |
| 決まりの順守 | 3.35 | 3.08 | 3.03 | 3.13 | | | | |
| 学校生活の充実 | 3.43 | 3.33 | 3.31 | 3.13 | | | | |

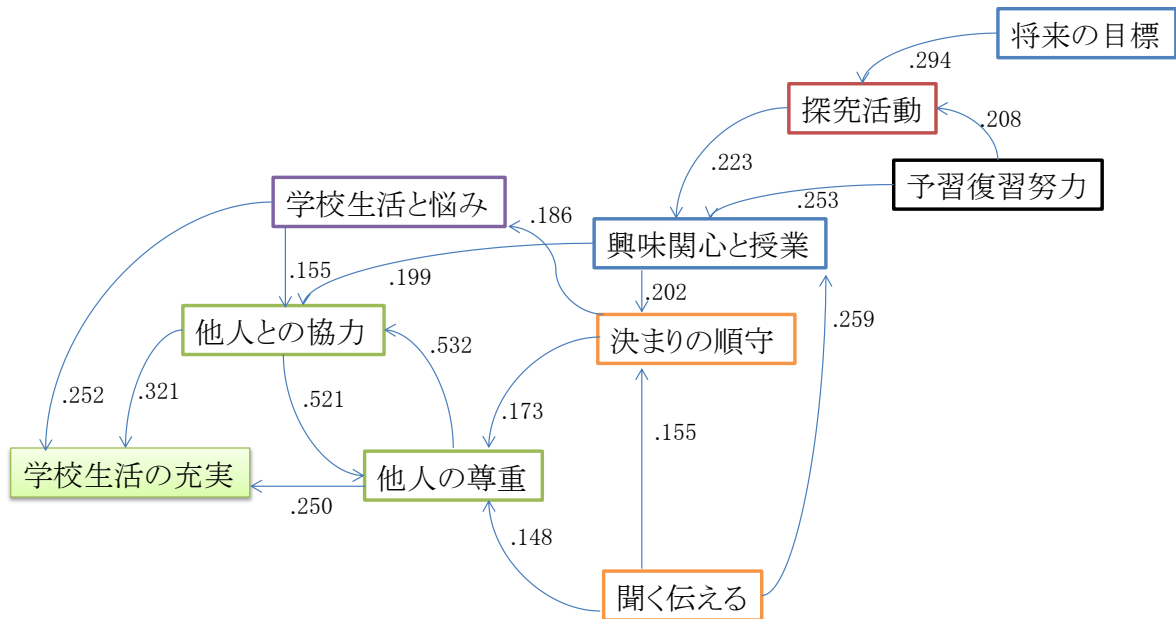
| 3年 | | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|------|------|--|--|
| 項目 | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 有意水準 | 多重比較 | | |
| 将来の目標 | 2.63 | 2.65 | 2.90 | 2.78 | | | | |
| 探究活動 | 2.46 | 2.51 | 2.58 | 2.76 | | | | |
| 聞く伝える | 2.88 | 2.89 | 3.05 | 3.12 | | | | |
| 興味関心と授業 | 2.76 | 3.05 | 3.13 | 3.07 | | | | |
| 予習復習努力 | 2.51 | 2.70 | 2.65 | 2.68 | | | | |
| 学校生活と悩み | 3.00 | 3.08 | 3.08 | 3.10 | | | | |
| 他人との協力 | 3.29 | 3.51 | 3.53 | 3.49 | | | | |
| 他人の尊重 | 3.24 | 3.57 | 3.43 | 3.54 | | | | |
| 決まりの順守 | 3.12 | 3.27 | 3.55 | 3.29 | | | | |
| 学校生活の充実 | 3.54 | 3.57 | 3.48 | 3.54 | | | | |

「将来の目標」から「学校生活の充実」までの10項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年のクラスごとに各項目に対する回答の平均を算出し、平均の差の推計に一要因分散分析を施し多重比較にはボンフェローニの法を用いた。なお、1～4組は、A～D組には対応しておらず、任意に組み替えを行った。

その結果、各学年のクラス間で有意差が認められたのは、1年生の「他人の尊重」「学校生活の充実」のみであった。2年生、3年生においてはクラス間の差がないということは、学校として一定度均等な学習指導が展開されている結果と判断することができるものといえよう。

(5) 学校生活の充実に影響する要因間の関連

下図は、生徒の回答から「学校生活の充実」を従属変数とし、他の9項目を説明変数として重回帰分析を繰り返し施した結果をパス図に表したものである。9項目の説明変数はその都度ステップワイズに投入し、標準偏回帰係数(相対的な説明力の強さの指標)が最も大きいもの、次に大きいものを適宜採用した(図中の数値は標準偏回帰係数)。



生徒の学校生活の充実に影響する要因の体系

生徒が本校で充実した学校生活を送るためには、まず、他者との協力が円滑に保たれること、学校生活に悩みがないこと、周囲の他者を尊重した行動が保たれていることが重要となることわかる。次に、他者との協力関係を円滑に保たれることには、学校生活に不安や悩みがなく、他者を尊重する態度保たれ、さらに、興味関心をもって授業に取り組めることが関係してくる。また、他者を尊重する態度を育てていくためには、聞く・伝えるという姿勢と、学校生活上の決まりを守ること、他者と協力関係が保たれることが大切となってくる。

学校生活の不安や悩みに、影響する要因が決まりの順守であることから、中学生においては、まず、基本的な決まり事について、その順守を徹底することが重要になってくるものと考えられる。

生徒が興味関心をもって授業に臨むことには、予習復習に向けた努力、聞く伝えるという力の伸展を図ること、また、探究活動の充実が影響してくる様子をうかがえるものといえよう。

生徒が将来の目標をはじめとした、学校生活を送るうえで、目標を明確にすることが、充実した学校生活の出発点となることがうかがえることから、その点を踏まえた組織的努力を維持し積み重ねていくことの重要性が示唆されよう。